



家族で撮影した集合写真。
最後列左側が松枝さん、その隣が梅枝さん

時代を超えて、今ここに

敬老の日特集

100年一緒に

双子姉妹が紡いだ
「絆」の物語



9

年1月1日、市内の橋本松枝さん、佐藤梅枝さんの双子姉妹が100歳を迎えます。同じ時を生き、心が通い合う二人。幼少期から現在まで、時代の転換の中で支え合ってきた100年を振り返ります。

☎ 82-1115
関保健福祉部 高齢福祉課

昭和2年、双子で誕生

松枝さんと梅枝さんは、昭和2年生まれの子供たちです。11人きょうだいの中で、長女が松枝さん、次女が梅枝さんとして



「両親はとても良い人でした」と話す松枝さん

生まれました。「生まれた日が一緒だからね。双子だからこそ、何か不思議なつながりがあるんですよ」と梅枝さん。ご両親は明治生まれで、11人の子どもを育てました。ご両親から受けた「我慢強さ」と「心の強さ」は、二人の人生の土台となり、その後のあらゆる場面で支え続けることとなります。

松枝さんは「両親は頭が良く、我慢強く、とても良い人でした。そういう親のもとで育ったから、私たちも頑張ることができたんです」と振り返ります。

別々の道、変わらぬ心

昭和18年、松枝さんは結婚しました。太平洋戦争の最中でした。その後、昭和23年に梅枝さんも結婚しました。二人は別々の家に嫁ぎながらも、電話もままなら

『住む場所は違っても、

心はつながっていた』



二人の思い出を振り返る梅枝さん

ぬ時代の中で、さまざまな工夫で連絡を取り合いました。「住む場所はずっと、心はつながっていた。それが双子だからこそ不思議なんです」と、二人は声をそろえます。松枝さんが嫁いだ橋本家の地域は、食料の確保が難しい地域でした。一方、梅枝さんが嫁いだ佐藤家は農業地域。状況は異なれど、梅枝さんの心は常に姉・松枝さんへ向けられていました。「姉さんほもっと大変だと思うと、自分も頑張ろうと思えました」。



孫の結婚式で撮影した2ショット

高度経済成長期を迎え、子どもたちも成長し、お孫さんも誕生しました。二人は、妻、そして母として、それぞれの人生を歩んできました。「時代がどんなに変わっても、姉さんとの絆は変わりませんでした。むしろ、絆がより強くなった」。こう語る梅枝さんの表情には、深い確信が映っています。二人は、ご両親から受けた「我慢強さ」と「心の強さ」を、自分たちの子どもたちにも伝えていきました。現在、松枝さんは週3回、梅枝さんは週1回、地域のデイサービスに

通っています。二人は「若い職員さんが声をかけてくれるのがうれしいんです。そういう時間が毎日明るくしてくれます」と話します。

口にする言葉から、双子だからこそ深い結びつきが感じられます。

100年が教えてくれたこと

毎日の中に小さな喜びを見つけ、丁寧に過ごす。その積み重ねが、今の二人の元氣につながっているのでしょう。驚くことに、二人には不思議なつながりがあります。「片方の具合が悪いと、もう片方も具合が悪くなることがあるんです。双子だからなのかもしれませんね」。松枝さんが微笑みながら

二人に、100年の人生で最も大事な気づいたことを尋ねると、同じ答えが返ってきました。

「人とのつながり。とりわけ家族の絆です」「今の世の中は人とのつながりが薄れているかもしれません。大事なものは、一人ひとりとのつながりや感

『これからも、健康に気をつけながら、

一緒に歩んでいきたい』



「これからも一緒に歩んでいきたい」と話す梅枝さん(左)と松枝さん